「生き生きとした読書感想文を書くテクニック講座」

夏休み、感想文で悩む中学生は多いはずです。あなたはもう書き終えましたか?

夏休み後半になると、ほとんどの人が、「ああ、早く読書感想文をやらなくては・・・」 と、思うはずです。

でも、いつも「どうやって書いたらいいのか?」いまいち、よくわからないので、うまく書けないのではないでしょうか? さあ、読書感想文のイメージを一新させてしまいましょう。

ここに紹介するのは、感想文を、いやいや、やるのではなく、書きならが自分でも、楽しんでしまう、素晴らしいテクニックなのです。きっと、感想文が書きたくなるでしょう。

まず、大切なこと、「感想」という文字は忘れましょう。

その本の感想、つまり、「感想文」を書くことじゃないんだ。 その本を読んで、同じような「自分の体験」を綴るように、書いていく のです。その自分の体験談を、できるだけ、細かく、詳しく具体的に書 きます。生々しいほどいいのです。

1. よく、あなたが陥る間違い...

- ●その1 あらすじをダラダラ書いてしまう。これは絶対に止めましょう。読んでもらえません。。
- ●その2 一字一句、違わず、本から引用。(単に抜き出し)。 これも、いけません。字数稼ぎと思われるだけです。

2. 全体の構成イメージ

構成(文章の流れ)を簡単に言うと、

- ①読書体験
- ②自分の体験>反省
- ③決意

<ポイント>

- ・大半(7割程度)を、自分の体験談で、埋め尽くします。
- ・自分の体験談を書き始める前の、枕として、本の部分引用はします。 ただし、引用は、だいたい「3行~5行」でまとめます。
- ・自分の「会話文」も、ふんだんに入れます。字数も稼げます。

<簡単な例文>

- ①電力不足をテーマにした本を読んだ。
- ②自分は、日頃、電気を付けっぱなしにしている。電力不足に協力してしまっていた。
- ③これからは、こまめに電気を消そう。 今から、家中を点検する。そして、家族に、僕の決意を伝え、みんなにも実践しても らう。
- ③の決意を書く極意・・ まず、大きい決意(抽象的)、そして、小さい決意(具体的)

例: これからは、規則正しい生活をしよう。 そうだ、明日は4時半に起きるぞ。それを、毎日続ける。

3. 文体は・・敬体ではなく、常体にする。

「~です。」ではなく、「~だ。」

●常体と敬体

敬語を含まない文体を「常体」といい、敬語を含む文体を「敬体」といいます。

- ・「考えた」・・常体
- ・「考えました」・・敬体

4. 感情語は、使わない。

悲しいなら、「悲しい」とは書かず、 悲しい、と感じさせる"行動、動作"を書く。

(例)

- ①「僕は、涙が止まらなかった」「うつむいたまま、しばらく歩いていた」
- ②僕は、涙をこらえながら、右手の握りこぶしを何度も、何度も、 ブロック塀に、打ち続けた・・
- ③僕は、気がついたら、スキップをしながら、家に向かっていた。

5. 「思う、思います、」は使わない。

読書感想文は、これのオンパレードが多い。 審査員が、吐き気をもよおす典型例。

「~だと思う。」ではなく、「~だ。」でOK。

6. 一文は、出来るだけ短かく。

特に、②は、短ければ短いほどいい。 臨場感が増し、文に迫力が出ます。

作文がヘタな子ほど、一文が長い。 だから、分かりづらい、書いている本人も分かっていない。

・悪い例

僕は、自転車に乗って、猛スピードで、待ち合わせ場所に向かいましたが、 誰もいなかったので、悲しかったけど、しかたなく、家に帰りました。

・改良例

僕は、自転車にまたがった。 そして、思いっきりペダルを踏む。思いっきりこいだ。 急加速。グングン進む。進む。

いつもの見慣れた風景。 しかし今日は、早送りで、後ろに流れていった。 グングン、グングン・・自転車は走る、走る・・

待ち合わせ場所はまだだ。走る、走る・・

もうすぐだ。

ひょうたん公園の一本松の下、いつもの待ち合わせ場所。走る、走る。 一本松のてっぺんが見えてきた。もう、まもなく。 そして、一本松の全体が、ようやく見える。

しかし、誰もいない。 友達どころか、人っ子ひとりいなかった。 ペダルをこぐ足が止まる。一本松の真下で、自転車は止まった。

僕の両腕はだらりと下がる。

目の前の一本松が、あふれる涙で、かすんでいた。

僕はしばらく立ちすくむ・・

うつむいたまま、ようやく僕は、ハンドルを握り直した。

今来た道を、戻る。

ゆっくり、ゆっくりと・・

さあ、あなたは、これを読んでどう思いましたか?

とても、いきいきとして、どんどん読みたくなりますね? あなたも、ポイントを知っていれば、きっと書けるはずです。

これは例ですから、多少、おおげさに書いきましたが、何でもないことでも、出来るだけ、短かく、細かく、具体的に書くことによって、読み手を引き込めるし、なにしろ、自分も書いてて楽しいはずです。

なにしろ、字数を稼げるのでとてもいいです。 課題作文なので、これは重要なことです。

【ハイレベル編】

それから、上の例の文章では、実は"あるテクニック"を使っているのに気づきましたか?

それは、「時制」です。

「現在形と過去形を、交互に使っています。」

これを英語でやったら、大変です。

「時制の一致」という、最重要規則があります。

しかし、日本語ではこれが、許されます。日本語は、時制の不一致OKな世界ですから。 これで、臨場感が出るのは不思議です。日本語って面白いですね。

そんなことも、日本語は、外国人にとっては、超難解な言語なんでしょうね。

最後に、超裏ワザを2つ!

1, もし、あなたに「体験」がない場合は、どうしたらいいのか?

そういう時は、<u>有ること無いこと、どんどん、あなたの頭の想像の世界で、創造して</u>いってしまいましょう。頭に思いついたことを、どんどん文章にしていくのです。

「作り話」でも、いいのです。どうせ課題ですので、事実確認されるわけでもありません。それより、この作り話が、上手い人は、創造性にたけ、将来「作家」になれる 可能性があるのです。

2. 実は、本は全部読まなくてもいい。

特に、文章を読むスピードが遅い子にとっては、1冊読むのに、膨大な時間だけがかかります。目次を見て全体を把握して自分の体験を重ねられる箇所を読めばいいのです。 最初の方から読み始めて、自分のことと重なりそうなところに出くわしたら、そこだけを 引用して、すぐ書いちゃいましょう!

まだ、ほとんど読んでない子は、これは即、実行~!!

さあ、課題作文で、キミも大作家を目指してしまおう!

・・おまけ・・

文中の一人称は、「私」がオススメ。

男子は、「僕」を使う傾向が強いですが、どうしても、小学生のように、幼い雰囲気になってしまいます。「私」だと、それなりの文章に見えてくるから不思議です。 別に、中学生らしく、、なんてする必要はえりません。大人びていて、いいのです。

本の選び方

自由(課題)図書5~10冊から選ぶ場合・・

読みたい本が、かならずしも、書きやすい本とは限らない。

お薦めは、学園モノ、部活、イジメ、運動会などの学校行事、家族がらみなどは、自分の 体験と重ねやすいテーマがいい。

●著作 秀学ゼミナール 塾長 前田俊彦 構成・補足・監修 河原塾 塾超 河原利彦